

成田市公設地方卸売市場運営審議会会議録

1 開催日時

平成29年10月10日（火）午後3時～4時

2 開催場所

成田市飯仲42番地2

成田市公設地方卸売市場 管理事務所2階会議室

3 出席者

（委員）

岩澤貞男会長、篠原圭助委員、加瀬間俊勝委員、西山重男委員、菅谷実委員、廣野安弘委員、小宮山四郎委員、原野義史委員、伊藤竹夫委員、神谷隆一委員、柿澤利行委員、池田直記委員、鈴木光男委員、日置久恵委員、磯野徳子委員

（事務局）

都祭幸也部長、五十嵐昭夫参事、金光公太場長、郡司芳己係長、伊藤敬之主任主事

4 議題

- (1) 新市場整備事業の経過報告
- (2) その他

5 議事（要旨）

- (1) 新市場整備事業の経過について、事務局より以下の通り報告した。

① 設計業務について

プロポーザル方式の募集を行った結果、「八千代エンジニアリング株式会社・野村アグリプランニング&アドバイザー株式会社・株式会社佐藤総合計画 共同企業体」を受注者として決定し、契約を締結した。現在は、場内の卸・仲卸事業者等と打ち合わせを重ね、設計の策定作業を進めている。

② 用地について

再整備用地として「千葉県花植木センター跡地」について、議会での議決の上、1億2,370万円にて取得した。

③ 施設整備の進捗状況及び今後のスケジュール

施設の実施設設計と並行して地質調査及び樹木の撤去作業、都市計画の変更手続きを進めている。地質調査については既に完了し、その他、本年度は既存建物の解体工事と土壌調査の発注を予定している。来年

度以降は、用地の造成工事、施設の建設工事を行う。

④ 施設の配置及び構造

公設で中央に本体棟、民設で東側に関連棟及び南側に集客施設棟を整備する。

本体棟については、機能ごとに棟を独立して建設する「分棟案」ではなく、コールドチェーンの確保・人や物の動線などの機能面や、工事にあたっての施工効率の向上などを総合的に判断し、青果棟・水産棟・高機能物流棟を合わせて一体とする「合築案」を採用することとした。

⑤ 概算工事費

水産棟・青果棟・ワンストップ輸出拠点棟などの建設工事費は、73億6千万円となる。なお、当初民設を予定していた高機能物流棟の内、加工・物流、冷蔵・冷凍施設については、調達から加工・パッケージング・輸出手続きを1か所で実施する新市場に必要な施設であることや、合築に伴う施工効率の向上等の観点から、公設での整備が相応しいものと判断し、45億9千万円の建設工事費を見込んでいる。それらに造成工事費15億円を加え、総工事費は134億5千万円となる。

⑥ 収支シミュレーション

開業から30年間の収支をシミュレーションしている。一般会計からの繰入れは基準内に留め、残りの経費については使用料などの事業者負担によることとし、市の全体の財政運営に対して過大な負担とならないよう、健全な収支計画に基づいた市場運営に努めたいと考えている。

⑦ 成田市場輸出拠点化推進協議会の取組み

平成27年度イギリス・ロンドン試験輸出に続き、平成28年11月には、マレーシア・クアラルンプール近郊の現地系食品小売店において、空輸による生鮮農林水産物及び加工品に対するニーズ調査を行った。次にアメリカ カリフォルニア州トーランスの日系食品スーパーにおいて、空輸した鮮度の高い水産物に対する評価を調査した。平成29年2月には、EU最大規模の青果物展示会「FRUITS LOGISTICA 2017」に出展し、青果物を欧州等へ輸出する際の成田市場の強みや今後の課題・改善策の整理、及び現地の卸売企業等との連携可能性の調査を実施した。また、ここで構築した、バイヤーとのネットワーク等を活用し、ドイツ・フランス・オランダ・ベトナムの輸入業者等6事業者、9名のバイヤーを日本に招へいし、成田市場の卸売会社と共に日本産農林水産物の生産・加工・流通現場を視察し、成田市場輸出拠点化推

進協議会の会員との意見交換を実施した。

平成 28 年度までの事業を元に、国際農産物等市場推進計画を取りまとめ、その中で、今後の取り組みとして行っていくべき「事業ビジョン」や「基本戦略」を策定しており、本年度はこれらをもとにした取り組みを進めている。

本年度の主要事業である海外の卸売市場との市場間連携による輸出拡大の検証については、フランスの「ランジス国際卸売市場」への水産物の輸出の他、ドイツの「フランクフルトフレッシュセンター共同卸売市場」への青果物の輸出の実現に向け協議を行っている。その他、販路開拓のため、中国の陝西省西安において、日本産農林水産物の輸出に向けた調査を実施した。また、成田市場内の水産・青果事業者が独自にベトナム・カンボジア・シンガポール等への輸出に向けた活動を行っている。

(2) その他

委員より、以下のような趣旨の発言があった。

- 新市場参入業者に対し、事業が軌道に乗るまでの補助金等、財政的な支援を市へ要望する。
- 青果卸売業者について、再整備事業よりも輸出拠点化事業に軸足を置いている印象を受けることや、急に事業承継が行われたこと等から不安がある。輸出を除く新市場の運営についてしっかりと検討いただくとともに、仲卸業者との情報共有を徹底して欲しい。
- 市場運営における現状最大の課題は集荷能力である。
- 市場再整備に関し残存する不安を解消するため、他に委員会等を設け、勉強会を試みてはどうか。

6 傍聴

傍聴者 4 名

7 次回開催日時 (予定)

未定